

(2) 概測IV遺跡



カマド燃焼部覆土断面・N→



カマド燃焼部覆土断面・E→5



カマド燃焼部断面・N→



カマド燃焼部焼土断面・E→



カマド完掘・N→



土坑1断面・N→

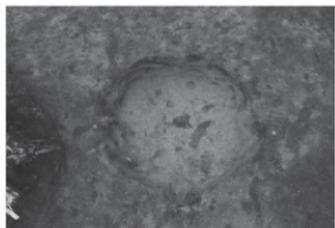


土坑3断面・N→

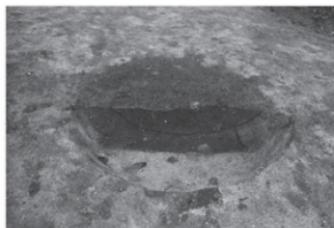


土坑3遺物状況・N→

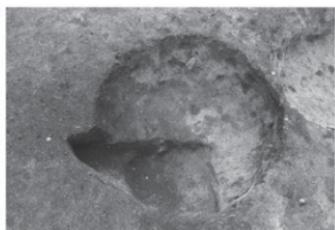
写真図版3 1号竪穴住居(2)



1号土坑全景・N→



1号土坑断面・N→



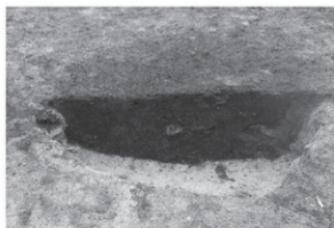
2号土坑全景・NW→



2号土坑断面・NW→



3号土坑全景・NW→



3号土坑断面・NW→

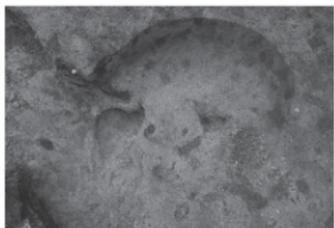


4号土坑全景・NE→



4号土坑断面NE→

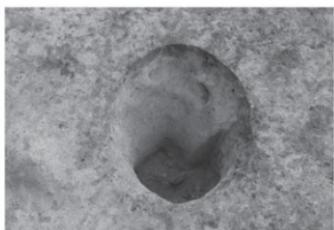
(2) 掘削IV遺跡



5号土坑全景・NE→



5号土坑断面・NE→



1号陥し穴状遺構全景・NE→



1号陥し穴状遺構断面・NE→



2号陥し穴状遺構全景・E→



2号陥し穴状遺構断面・E→



3号陥し穴状遺構全景・NE→



3号陥し穴状遺構断面・NE→

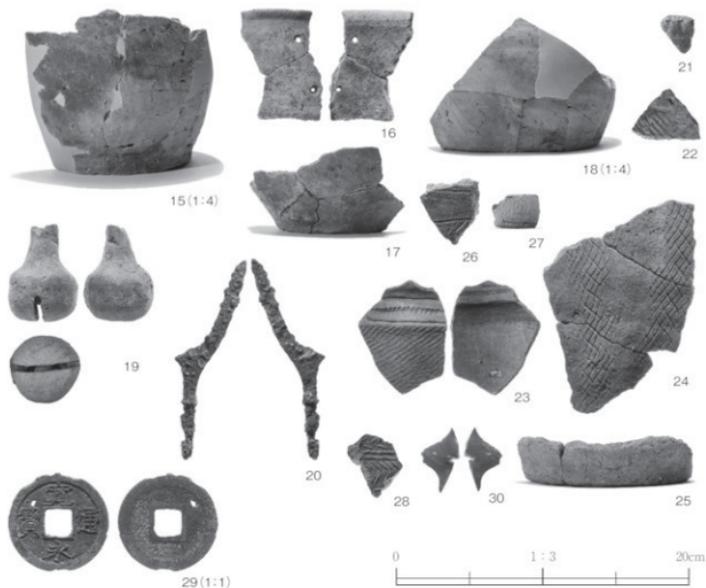
写真図版5 5号土坑、1～3号陥し穴状遺構



0 1:3 20cm

写真図版6 土師器(1)

## (2) 横割IV遺跡



写真図版7 土師器(2)、土製品、金属製品、縄文土器、銭貨、石器

第3表 土坑・遺構外出土遺物観察表

| No | 出土地点         | 層位   | 器種 | 部位    | 所見  | 図 | 写 |
|----|--------------|------|----|-------|---|---|---|
| 21 | 4号土坑         | 埴土   | 不明 | 胴部    | 沈線、刺突、華蓋筋着。   | 8 | 7 |
| 22 | II A2a (晩期木) | 不明   | 胴部 |       | 縄文・縄文I区。  | 8 | 7 |
| 23 | II A2a (PC跡) | II層  | 沈鉢 | 口縁～胴部 | A字の突起。口縁直下、内部に横、横位平行沈線の間に斜位連続刺突。地文・縄文I区併。(縄文晩期中～末期) | 9 | 7 |
| 24 | II A2a (PC跡) | II層  | 沈鉢 | 胴部    | 斜位沈線本文区(華輪筋全体消失)。縦位に磨りこぎ平消し。No.25同一個体。(後期前半中)       | 8 | 7 |
| 25 | II A2a (PC跡) | II層  | 沈鉢 | 胴部～底縁 | 混じり本文区。No.24同一個体。(後期前半中)                            | 8 | 7 |
| 26 | I A2b (縄土)   | III層 | 胴部 |       | 沈線。斜位連続刺突と縦位文帯状の連続刺突。No.29に類似する。(早期中葉)              | 8 | 7 |
| 27 | I A2b        | 埴土   | 沈鉢 | 胴部～底縁 | 沈線本文区内に若干の筋。胴部下段に沈線が落ちる。地文・縄文I区併。(晩期末期中)            | 8 | 7 |
| 28 | I A2b        | II層  | 沈鉢 | 胴部    | 沈線。斜位連続刺突と縦位文帯状の連続刺突。No.29に類似する。(早期中葉)              | 8 | 7 |

### (3) 八森遺跡

|        |                     |          |                    |
|--------|---------------------|----------|--------------------|
| 所在地    | 九戸郡洋野町有家第3地割八森ほか    | 遺跡コード・略号 | I F 89-0314・HTM-16 |
| 委託者    | 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所 | 調査対象面積   | 920㎡               |
| 事業名    | 国道45号種市登坂車線整備事業     | 調査終了面積   | 920㎡               |
| 発掘調査期間 | 平成28年10月31日～12月5日   | 調査担当者    | 菊池貴広・高橋義介          |

#### 1 調査に至る経過

八森遺跡は、一般国道45号種市登坂車線整備事業の事業区域内に存在することから、発掘調査を実施することとなったものである。

種市登坂車線整備事業は、当該箇所に縦断勾配5%以上の急勾配が存在し、追いつき可能区間が周辺に無いため、大型車の低速走行による交通混雑が発生しており、冬季路面凍結による交通障害も発生している。また、厳しい道路条件や無理な追いつきに起因する事故発生が懸念されるため、登坂車線を設置し交通事故の削減および交通円滑化を図る事業である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取扱いについては、平成27年7月15日付け国東整陸一調第15-3号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成27年8月25日～8月26日にわたり試掘調査を行い、平成27年9月25日付け教生第1012号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成28年4月1日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所)



第1図 遺跡位置図

## 2 遺跡の位置と立地

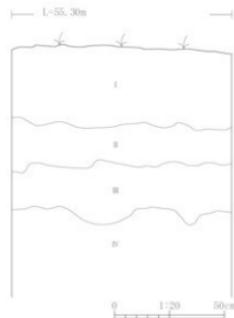
遺跡の所在する野野町は、岩手県北部の太平洋側に位置し、西側が軽米町、南側が久慈市、北側が青森県三戸郡階上町の1市2町と隣接している。

遺跡はJR八戸線有家駅より西南西へ約850m、緩やかに東側に傾斜する谷底平野に立地している。現況は山林・原野及び町道の法面で、標高は54～62mの範囲にある。国土地理院発行の2万5千分の1地形図「陸中野原」NK-54-18-3-3（八戸3号-3）の図幅に含まれ、北緯40度19分21秒、東経141度45分49秒付近にあたる。

## 3 基本層序

層序は、I～IV層に大別される。I層は調査区の中央部(10Fグリッド)付近で厚い堆積が見られ、南端部側に行くにつれて薄くなる様相を示している。

- I層 10YR1/1 黒色シルト。粘性は弱く締まりがある。層厚は38cm。
- II層 10YR3/2 黒褐色土シルト。粘性が強く締まりが密である。南部浮石堆積層。層厚は20cm。
- III層 10YR3/3 暗褐色土シルト。粘性が強く締まりが密である。南部浮石を微量に含む。層厚は18～30cm。
- IV層 10YR5/8 黄褐色土砂質シルト。粘性が強く締まりが密である。層厚は不明。



第2図 基本層序

## 4 調査の概要

粗掘りは表土からIII層中位までを重機を使用し、除去後に人力による遺構検出作業を行った。最終的にIV層上面において遺構が検出されている。また、調査区の南側は径1m以上の岩盤崩落石や転石の堆積があり、中央部付近ではIII層下位で湧水による水酸化鉄の広範囲な分布が認められる。

### (1) 遺構

今回の調査で検出された遺構は、古代の竪穴住居が1棟である。

#### 1号竪穴住居(第4図、写真図版1・2)

- 〈位置・検出状況〉調査区中央部の11Eグリッドに位置し、IV層上面の黄褐色土で検出されている。
- 〈形状・規模〉遺構の半分以上が東側の調査区域外に続くことから、形状・規模の詳細は不明である。検出された規模(下端で計測)は東辺0.54m、西辺1.80m、北辺2.54mを測る。確認された規模と形状から、径2.60m前後の隅丸方形を呈すると考えられる。〈重複関係〉確認されない。
- 〈埋土〉黒色シルトの単層で構成され、自然堆積の様相を示している。粘性は弱く全体に堅く締まっている。
- 〈壁・床〉壁は床面からやや外傾して立ち上がっており、壁高は東壁32cm、西壁22cm、北壁32cmを測る。床面はほぼ平坦で、全面に貼り床が施され堅く締まっている。
- 〈柱穴・他の施設〉調査区内では検出されない。
- 〈カマド〉北壁のはは中央部に設置している。本体部は天井が崩落し、被覆した粘土も流失していることから詳細が不明である。煙道部と煙出し部は崩平を受けており検出されなかったが、遺構検出の際に煙出し下部と見られる円形状の輪郭を確認している。天井部と袖部の芯材は亜角礫を使用している。燃焼部は強く焼成を受け径50×50cm、厚さ10cmの円形状焼土が形成されている。

(遺物・時期) カマド焚き口周辺と床土から、土師器の土器が3点と石器が2点出土している。

1・2はロクロ不使用の甕で、3が甕である。1の口縁は頸部から直立気味に立ち上がり、上半部で外傾している。口唇部は平坦である。器面調整は口縁部がヨコナデの上を横位にヘラミガキ、体部外面は縦方向に丁寧なヘラミガキ調整を施している。底部は摩擦しているが一部に網代痕が認められる。2は現存3分の1の口縁部～体部破片である。口縁部は頸部から外反して立ち上がり、ヨコナデの上に縦方向にハケメが見られる。体部外面は縦方向に丁寧なヘラミガキ調整を施している。3の底部は欠損しており、周辺部に成形痕が見られることから甕を転用した甕と考えられる。口縁部は頸部に浅い一条の沈線が巡り、外傾して立ち上がっている。器面調整は口縁部がヨコナデの上をヘラミガキ、体部外面がハケメとヘラナデ調整を施している。体部上半部は使用時におけるススの付着が顕著である。

4は径9.8×10cm、厚さ2.2cmの円盤状の石器で被熱を受け一部が剥落している。器種と用途は不明である。5は楕円形状をした敲磨石で、側縁と端部が使用されている。

## (2) 出土遺物

遺構外からは縄文土器片2点と石器3点出土しており、内4点を掲載している。6は表裏に縄文を施した土器破片で、縄文時代早期末に比定される。

7は掴み部に対して形状が縦形の石匙である。刃部の成形が片側だけであることから未完成品と考えられる。8・9は楕円形状の礫を素材とする磨石で、両面ないし片面に使用痕が認められる。

## 5 まとめ

検出した遺構は前述の通り古代の堅穴住居が1棟であるが、洋野町内で今回3例目の事例となった。遺構の調査はカマド側を中心とした一部であることから、形状・規模の詳細が不明である。出土した土器は、酸化焼成されたロクロ不使用の土師器甕と甕である。口縁部はヨコナデの上を縦位にハケメやヘラケズリ、体部はハケメ調整後にヘラナデやヘラミガキで器面調整を施している。出土点数が少ないことから土器の分類は割愛した。時期は器形と調整技法やカマド設置位置の類似等から、奈良時代(8世紀)に比定される。また、調査区の東側に続く畑と原野側に集落が存在することが考えられる。縄文時代の石器や早期の土器(表裏縄文)破片も出土していることから、周辺に同時期の遺構の分布もうかがわせる。

なお、八森遺跡に関わる報告はこれをもって全てとする。

第1表 土器観察表

| 掲載番号 | 出土遺構・地点 | 層位  | 器種    | 法量 (cm) |     |        | 口縁部(外面/内面)                | 体部(外面/内面)               | 底部  | 図版 | 写真図版 |
|------|---------|-----|-------|---------|-----|--------|---------------------------|-------------------------|-----|----|------|
|      |         |     |       | 口径      | 底径  | 器高     |                           |                         |     |    |      |
| 1    | 1号堅穴住居  | 床面  | 甕/土師器 | 16.9    | 7.3 | 24.6   | ヨコナデ・ヘラミガキ<br>/ヨコナデ・ヘラミガキ | ハケメ・ヘラミガキ<br>/ハケメ・ヘラミガキ | 網代痕 | 4  | 2    |
| 2    | 1号堅穴住居  | 床面  | 甕/土師器 | (19.5)  | —   | (22.2) | ヨコナデ・ハケメ<br>/ヨコナデ・ヘラミガキ   | ヘラミガキ/ハケメ               | —   | 4  | 2    |
| 3    | 1号堅穴住居  | 床面  | 甕/土師器 | 19.8    | —   | 26.6   | ヨコナデ・ヘラミガキ<br>/ヨコナデ・ヘラミガキ | ハケメ・ヘラナデ<br>/ハケメ・ヘラミガキ  | —   | 4  | 2    |
| 6    | 5Gアッド   | II層 | 深鉢・陶文 | —       | —   | —      | —                         | 0段多角/厚紙                 | —   | 5  | 2    |

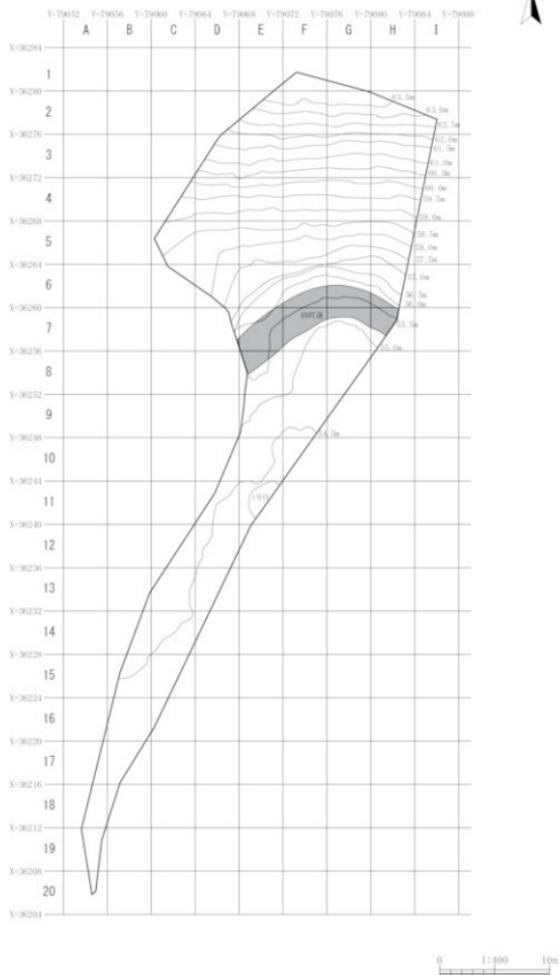
( )は推定値 ( )は残存長

第2表 石器観察表

| 掲載番号 | 出土遺構・地点 | 層位  | 器種  | 石質  | 産地          | 計測値    |       |       | 図版     | 写真図版 |   |
|------|---------|-----|-----|-----|-------------|--------|-------|-------|--------|------|---|
|      |         |     |     |     |             | 長さ(cm) | 幅(cm) | 重量(g) |        |      |   |
| 4    | 1号堅穴住居  | 床面  | 不明  | 砂岩  | 北上山権 中生代    | 10.0   | 9.8   | (2.1) | 307.7  | 5    | 2 |
| 5    | 1号堅穴住居  | 床面  | 敲磨石 | 砂岩  | 北上山権 中生代    | 13.2   | 8.4   | 6.9   | 1020.6 | 5    | 2 |
| 7    | 5Gアッド   | II層 | 石匙  | 頁岩  | 北上山権 中生代    | 5.0    | 2.2   | 0.8   | 7.5    | 5    | 2 |
| 8    | 5Gアッド   | II層 | 磨石  | 花崗岩 | 北上山権 中生代白亜紀 | 30.4   | 8.1   | 3.0   | 285.3  | 5    | 2 |
| 9    | 5Gアッド   | II層 | 磨石  | 砂岩  | 北上山権 中生代    | 15.3   | (4.3) | 6.0   | 507.3  | 5    | 2 |

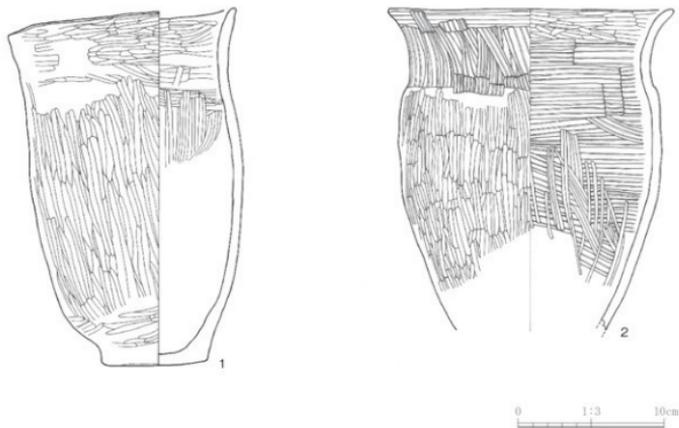
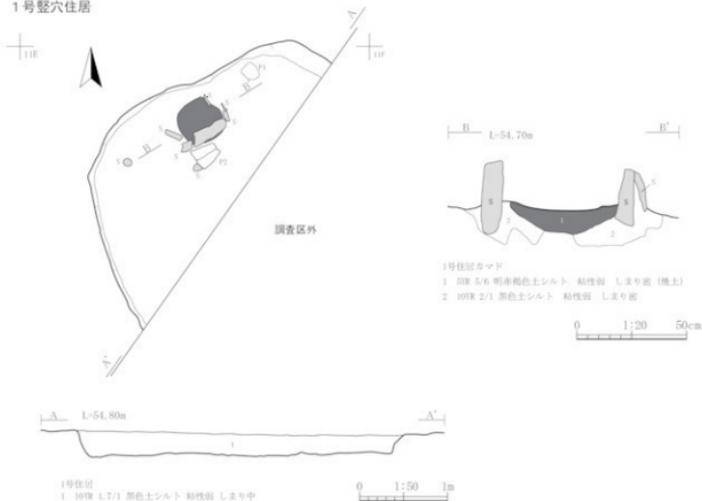
( )は現存長

(3) 八森遺跡

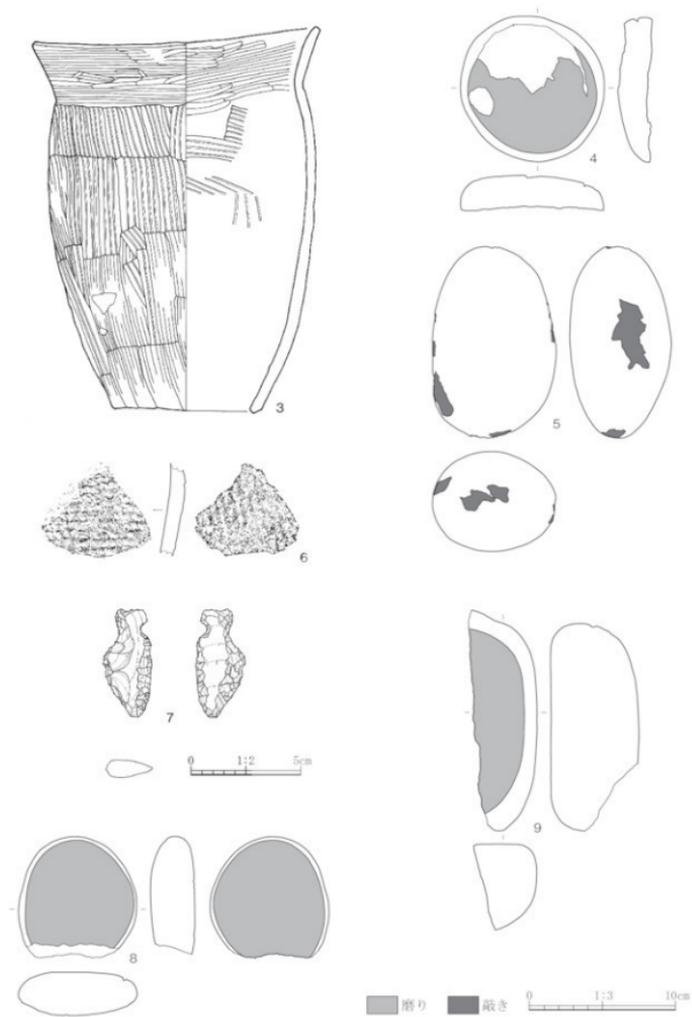


第3図 遺構配置図

1号竪穴住居



第4図 1号竪穴住居・出土遺物(1)



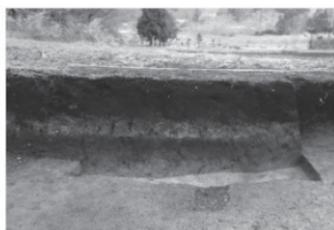
第5図 出土遺物(2)



調査前近景 (南から)



調査区検出状況 (南から)



基本層序 (西から)



1号竪穴住居 (西から)



1号竪穴住居 (東から)

写真図版1 調査区近景・基本層序・1号竪穴住居

(3) 八森遺跡



1号竪穴住居遺物出土状況（東から）



1号竪穴住居カマド断面（東から）



写真図版2 1号竪穴住居・出土遺物